

平成15年度教育課程実施状況調査 教科別分析と改善点 (中学校・国語)

1. 今回の調査結果の特色

(1) 調査結果の概要

【ペーパーテスト調査】

<話すこと・聞くこと>

話の内容を聞きとる問題では概ね前回調査の通過率を上回ったが、インタビューの様子を聞いて、話し方の工夫を答える問題では、設定通過率を下回った。

<書くこと>

題材をもとに自分なりに書く問題では概ね設定通過率を上回った。

具体的な条件を示されて書く問題は通過率が低く、文頭や文末を指定して文章を書き直す、推敲に関する問題では設定通過率を下回った。

<読むこと>

段落の要点や筆者の考えをとらえる問題では設定通過率を上回ったが、全体とのかかわりで部分を正確に読み取る問題や、文章の内容を理解した上で適切に要約する問題では、設定通過率を下回った。

文章の表現に即して自分の考えや感想をまとめる形式の問題において前回調査の通過率を下回った。

<言語事項>

文脈に即して漢字を正しく読む問題では概ね設定通過率を上回ったが、文脈に即して漢字を正しく書いたり、語句や語彙を正しく使ったりする問題では、設定通過率を下回るものがあった。

記述式の問題、特に叙述に基づいて自分の考えを述べる問題で前回調査より無解答率が増えた。このことはOECD/PISA調査において「自由記述(論述)」形式の問題で無解答率が高かったことと共通する。

【質問紙調査】

前回調査より「国語の勉強が好きだ」「国語の勉強は大切だ」という肯定的な回答をした生徒の割合が上昇した。ただし、「大切だ」と思う割合に対して「好きだ」の割合が低い。

「国語を勉強すれば、私は、お互いの思いや考えをうまく伝え合うことができるようになる」と回答した生徒の割合が上昇した。

「自分の思いや考えを文章に書こうと努力している」と回答した生徒は約6割であるのに対し、「自分の思いや考えを積極的に話している」と回答した生徒は約4割にとどまった。

課題解決的な学習を取り入れたり、個に応じた指導を進めたりしている教師が増えている。

学校図書館を活用した授業については、教師の約6割が行っていないと回答した。

(2) ペーパーテスト調査結果の主な特色

① 過去同一の問題についての分析

前回調査（平成13年度調査）と同一の問題の通過率を比較すると、前回は有意に上回るもの又は有意に差がないもの問題数の合計が、全ての学年で7割以上を占めている。各学年の状況は以下のとおり。

	全問題数	同一問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
1年	85	18	4<22.2%>	11<61.1%>	3<16.7%>
2年	85	22	12<54.6%>	5<22.7%>	5<22.7%>
3年	84	18	6<33.3%>	12<66.7%>	0<0.0%>
計	254	58	22<37.9%>	28<48.3%>	8<13.8%>

- 通過率が前回は有意に下回った問題は、「読むこと(文学的な文章)」に関する問題11問中7問と、「言語事項」に関する問題15問中1問である。
- このうち、「読むこと(文学的な文章)」に関する7問については、4問が記述式の問題で、3問が選択式の問題である。記述式の問題は、2問が文章中の表現を抜き出して自分の解釈や考えを答える問題で、他の2問は文章中の叙述について話の展開をふまえて解釈する問題であった。
- また、選択式の問題のうち2問は、前回通過率を有意に下回るが、通過率は90%を超えている。これらは文章中における描写の意味を解釈する問題である。
- 「読むこと(文学的な文章)」で、登場人物の心情の変化の理由を叙述に即して考え、自分の言葉でまとめる問題 [2C3三] について、通過率が前回の55.2%に対して今回は47.1%と下回っている。

② 内容・領域別に見た分析

内容、領域ごとに通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるもの問題数の合計が半数未満であったのは、第1学年の「読むこと(文学的な文章)」と第2学年の「書くこと」のみである。また、「言語事項」は全学年で、通過率が設定通過率を上回ると考えられる又は同程度と考えられる問題数が8割を越えた。各学年の状況は以下のとおり。

		問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
1年	話すこと・聞くこと	7	5<71.4%>	0<0.0%>	2<28.6%>
	書くこと	4	1<25.0%>	2<50.0%>	1<25.0%>
	読むこと(文学的な文章)	14	5<35.7%>	1<7.1%>	8<57.2%>
	読むこと(説明的な文章)	12	2<16.7%>	6<50.0%>	4<33.3%>
	言語事項	48	37<77.1%>	8<16.7%>	3<6.2%>
	計	85	50<58.8%>	17<20.0%>	18<21.2%>
2年	話すこと・聞くこと	7	6<85.7%>	1<14.3%>	0<0.0%>
	書くこと	4	0<0.0%>	1<25.0%>	3<75.0%>
	読むこと(文学的な文章)	14	5<35.7%>	4<28.6%>	5<35.7%>
	読むこと(説明的な文章)	12	3<25.0%>	3<25.0%>	6<50.0%>
	言語事項	48	35<72.9%>	9<18.8%>	4<8.3%>
	計	85	49<57.6%>	18<21.2%>	18<21.2%>
3年	話すこと・聞くこと	7	3<42.9%>	1<14.2%>	3<42.9%>
	書くこと	4	1<25.0%>	2<50.0%>	1<25.0%>
	読むこと(文学的な文章)	13	3<23.1%>	6<46.2%>	4<30.8%>

	読むこと(説明的な文章)	1 2	4 <33.3%>	6 <50.0%>	2 <16.7%>
	言語事項	4 8	3 3 <68.8%>	9 <18.8%>	6 <12.5%>
	計	8 4	4 4 <52.4%>	2 4 <28.6%>	1 6 <19.0%>
	合計	2 5 4	1 4 3 <56.3%>	5 9 <23.2%>	5 2 <20.5%>

- 通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数は、「話すこと・聞くこと」は21問中16問、「書くこと」は12問中7問、「読むこと(文学的な文章)」は41問中24問、「読むこと(説明的な文章)」は36問中24問、「言語事項」は144問中131問であった。

<話すこと・聞くこと>

- 現行学習指導要領においては、指導時数の目安を示して、「話すこと・聞くこと」の指導の一層の充実を求めた。「話すこと・聞くこと」のうち話すことでは、通過率が設定通過率を上回ると考えられる問題が6問中4問、同程度と考えられる問題が2問だった。自分の立場をはっきりさせて意見や感想を述べる学習に加えて、話合いの話題や方向をとらえ、理由や中心点を明らかにして話す学習を引き続き充実させることが大切である。
- 聞くことでは、話の展開や語句や文の効果的な使い方に注意して聞く問題で、通過率が設定通過率を下回ると考えられるものが6問中3問あった。特に、話し手の工夫を問う問題は、設定通過率70%に対して通過率が47.1%であった[3C¹三]。適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力ある表現の仕方に注意して聞く点に課題がある。

<書くこと>

- 題材をもとに自分なりに書く問題では概ね設定通過率を上回った。
- 読み手に分かりやすく伝えることをねらいとして、文末を指定して文を書き直させる問題[3B²一]では、設定通過率70%に対して通過率が48.3%であった。
- これも含めて、推敲に関する問題は、設定通過率を下回ると考えられるものが5問中3問であった。読み手を意識して、よりよい表現を工夫する点、また、主述の対応等の言語事項の学習を「書くこと」に生かす点に課題があると言える。

<読むこと>

- 「読むこと(文学的な文章)」については、文章の表現に即して自分の感じたことや考えをまとめて、主体的に自分の読みを深めることをねらいとした問題[1C³四]で、設定通過率50%に対して通過率が18.2%であった。
- これも含めて、文章の表現に即して自分の考えや感想をまとめる形式の問題は、通過率が設定通過率を下回ると考えられるものが、5問中4問であった。叙述に即して自分の考えや感想をもつ点に課題があると言える。
- 段落の要点や筆者の考えをとらえる問題では設定通過率を上回った。
- 「読むこと(説明的な文章)」については、文章全体を読んで空欄にあてはまるキーワードを答える問題[3A³五]で、設定通過率70%に対して通過率が48.1%であった。空欄の前後の言葉を安易に選んでいる傾向が見られる。
- また、全体とのかかわりで部分を正確に読み取る力を問う問題[2A³五]や文章の内容を理解した上で適切に要約する問題[1A³五]の通過率は、設定通過率を下回ると考えられる。文章の構成や展開に即して文章を理解し、精査したり分析したりして要約する点に課題があると言える。

<言語事項>

- 「言語事項」で、通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられる問題数は、「漢字の読み」は45問中43問、「漢字の書き」は45問中39問、「文脈における語句の正しい使い方」は54問中50問であった。

- 通過率が設定通過率を下回ると考えられるものとしては、漢字を書く問題の「木のミキ」(38.1%)・「大切なニンム」(43.1%)・「結果をスイソクする」(49.4%)、漢字を読む問題の「企て」(36.3%)・「著しく」(55.4%)、文脈の中における語句や語彙の正しい使い方を問う問題の「徒勞」(35.2%)・「陰になり日向になり」(41.5%)・「ひいては」(45.6%)などがある。
- 漢字の読み書きについては、生徒質問紙調査において「漢字を読んだり書いたりすること」が「よく分かった」「好きだった」と答えた生徒が、他の項目よりも高い割合を占めていることとの関連が考えられる。

生徒の理解の状況(第2学年) 「よく分かった」上位5項目と下位5項目

※第2学年のデータを例示する。以下同じ。

	よく分かった	好きだった
漢字を読んだり書いたりすること	54.6%	44.7%
辞書を利用して調べること	52.6%	39.4%
音読や朗読をすること	49.5%	37.4%
みんなで話し合うこと	46.9%	38.1%
正しく整った文字を書くこと	46.8%	37.5%
詩や俳句などをつくること	33.5%	31.5%
文学的な文章を読むこと	31.2%	29.5%
話したり書いたりした内容を自分で評価すること	29.6%	19.0%
いくつかの文章を読み比べること	27.9%	19.6%
読んだ後に関連した他の文章を読むこと	25.7%	21.3%

③ 評価の観点別に見た分析

- 通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるもの問題数は、「国語への関心・意欲・態度」は6問中5問、「話す・聞く能力」は21問中16問、「書く能力」は12問中7問、「読む能力」は74問中46問、「言語についての知識・理解・技能」は144問中131問であった。
- このうち、「国語への関心・意欲・態度」に関する問題としては、「情報探索能力」に関する文章を読んで、生徒自身の日ごろの情報入手の方法を二種類以上記述することを求める問題[2B③]では、通過率が前回の81.7%に対して今回は91.2%であった。意図的に、情報を収集・活用する学習を取り入れてきた成果と考えられる。

(「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」については、「② 内容領域別にみた分析」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を参照。)

④ 前回調査(平成13年度)で課題とされた内容との関連

平成13年度の教育課程実施状況調査の分析においては、根拠を明確にしながら自分の考えや意見を述べる力の育成が必要であること、文章の構成や展開を正確にとらえる力の育成が必要であること、教師と生徒の意識の差を踏まえた指導の改善が求められること等を指摘した。

- 根拠を明確にしながら自分の考えや意見を述べる力については、平成13年度調査と同一の問題において、前回の通過率を有意に下回った。
- 文章の構成や展開を正確にとらえる力については、平成13年度調査と同一の問題において、前回の通過率を有意に上回った。
- 質問紙調査で明らかになった教師と生徒の意識の差については、文学的な文章の学習について、前回と同様の結果が見られた。

「文学的な文章を読むこと」について

(生徒)第2学年 (教師)第2学年 担当	生徒:好きだった 教師:生徒が興味をもちやすい		生徒:きらいだった 教師:生徒が興味をもちにくい	
	生徒	教師	生徒	教師
平成13年度調査	26.6%	65.1%	45.9%	5.7%
平成15年度調査	29.5%	72.2%	48.9%	7.0%

⑤ 国際調査との比較

OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2003) の「読解力」の結果から、読解のプロセスにおいては「テキストの解釈」「熟考・評価」に、出題形式においては「自由記述 (論述)」に課題があることが指摘された。

- テキストの解釈・熟考・評価に関連して、「読むこと (文学的な文章)」に関する問題において、文章の表現に即して登場人物の心情や考え方などをとらえたり文章の主題を考えたりして自分の考えや感想をまとめる問題は、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。文章中の言葉や表現を十分に吟味したり味わったりして、それを文章全体の理解に関連付けて自分の考えや感想を持つ点に課題があると言える。
- 一方、「書くこと」に関する問題において、グラフのデータに基づいて自分の考えを述べる問題は、通過率が設定通過率を上回ると考えられる。具体的に書く手順が示されていれば、テキスト (図表等の資料も含む) に基づいて自分の考えを述べることができると考えられる [3C²三]。
- 記述式の問題に関連して、今回の調査においては、「記述式問題」47問中、設定通過率を上回ると考えられるものが10問、同程度と考えられるものが14問、下回ると考えられるものが23問であった。前回調査と同一の記述式の問題については19問出題し、前回は有意に上回るものが5問、前回と有意に差のないものが10問、前回は有意に下回るものが4問だった。
- また、前回と同一の記述式問題における無解答率は全体的には大きな変化がなかったが、文学的な文章において、叙述に基づいて自分の考えを述べる問題で無解答率が増えた。

(3) 質問紙調査の結果の概要

① 生徒質問紙調査

ア 「国語の勉強が好きだ」「国語の勉強は大切だ」

「国語の勉強が好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、前回調査より増えている。しかし、「大切だ」と思う割合に対して、「好きだ」と思う割合は依然として低く、国語の授業をより一層魅力あるものにしていく必要がある。

国語の勉強が好きだ。(第2学年)

	平成13年度調査	平成15年度調査
そう思う	12.2%	14.2%
どちらかといえばそう思う	29.9%	31.8%
どちらかといえばそう思わない	29.5%	28.4%
そう思わない	21.3%	19.6%
わからない	6.4%	5.6%

国語の勉強は大切だ。(第2学年)

	平成13年度調査	平成15年度調査
そう思う	37.6%	43.0%
どちらかといえばそう思う	42.6%	40.6%
どちらかといえばそう思わない	9.6%	8.3%
そう思わない	5.2%	4.4%
わからない	4.3%	3.4%

イ 伝え合う力について

「国語を勉強すれば、私は、お互いの思いや考えをうまく伝え合うことができるようになる。」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が増えている。

国語を勉強すれば、私は、お互いの思いや考えをうまく伝え合うことができるようになる。

	平成13年度調査	平成15年度調査
第2学年	59.4%	62.5%

ウ 自分の思いを表現することについて

「自分の思いや考えを文章に書こうと努力していますか。」という質問に対して、「そうしている」「どちらかといえばそうしている」と回答した生徒が58.7%（第2学年）であるのに比べ、「自分の思いや考えを積極的に話していますか。」という質問に対しては、38.9%（第2学年）であった。話す、聞く、話し合う言語活動を一層取り入れていく必要がある。

② 教師質問紙調査

ア 言語活動例を取り入れた授業について

「言語活動例を取り入れた授業」については、「話すこと・聞くこと」で46.3%、「書くこと」で63.6%、「読むこと」で63.3%が「行っている方だ」「どちらかといえば行っている方だ」と回答している（第2学年担当）。前述の生徒の表現についての調査結果とも関連して、「話すこと・聞くこと」における一層の授業改善が望まれる。

イ 個に応じた指導について

前回調査と比べ、課題解決的な学習を取り入れたり、個に応じた指導を進めたりしている状況が表れている。以下の質問に対して、「行っている方だ」「どちらかといえば行っている方だ」と回答した教師の割合が増えている。

課題解決的な授業を行っていますか。

	平成13年度調査	平成15年度調査
第2学年担当	47.3%	56.5%

発展的な課題を取り入れた授業を行っていますか。

	平成13年度調査	平成15年度調査
第2学年担当	41.7%	50.1%

理解が不十分な生徒に対し、授業の合間や放課後などに更に指導していますか。

	平成13年度調査	平成15年度調査
第2学年担当	38.2%	43.0%

③ 読書活動、学校図書館の活用（生徒質問紙調査及び教師質問紙調査）

ア 授業以外での1日の読書時間（生徒）

学校の授業以外での1日の読書時間については、第2学年生徒の回答を見ると、「全く、または、ほとんどしない」が減り、「10分以上、30分より少ない」が増えている。

「学校の授業以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。土曜日、日曜日は除いてください。）」

	平成13年度調査	平成15年度調査
全く、または、ほとんどしない	54.4%	47.9%
10分より少ない	11.4%	11.9%
10分以上、30分より少ない	14.8%	19.1%
30分以上、1時間より少ない	11.1%	12.0%
1時間以上	7.5%	8.7%
無回答	0.8%	0.3%

イ 学校図書館を活用した授業（教師）

「学校図書館を活用した授業を行っていますか。」という質問に対して、肯定的な回答が増えているが、「行っていない方だ」「どちらかといえば行っていない方だ」という回答も63.8%（第2学年担当教師）あった。学校図書館の一層の活用が望まれる。

	平成13年度調査	平成15年度調査
行っている方だ	7.1%	7.3%
どちらかといえば行っている方だ	25.5%	28.5%
どちらかといえば行っていない方だ	41.1%	43.1%
行っていない方だ	25.2%	20.7%
無回答	1.1%	0.4%

ウ 学校の図書館などの利用（児童）

イに関連して、「学校の図書館などを利用して、読書をしていますか。」という質問に対して、肯定的な回答が増えているが、「どちらかといえばそうしていない」「そうしていない」という回答が73.6%（第2学年生徒）あった。

	平成13年度調査	平成15年度調査
そうしている	9.5%	12.7%
どちらかといえばそうしている	11.8%	13.3%
どちらかといえばそうしていない	17.6%	18.2%
そうしていない	60.4%	55.4%

2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

(1) 表現の意図や効果について考え、自分の意見や感想をもたせる指導の充実

文章を読んで自由に感想を述べることはできているが、文章の表現に即して自分の考えや感想をもつ点に課題が見られる。

文章中の語句や表現を具体的に取り上げて吟味したり味わったりするとともに、文章全体を読むことと関連付けてとらえていくよう指導することが必要である。その際、語彙を豊かにする指導との関連を図りながら、自分の思いや考えを的確に表現させるようにしていくことが大切である。また、意見や感想の発表だけでなく、生徒同士の話し合い等の交流場面を設けることが、自分の読みを深めたり確

かめたりする上で効果的である。

(2) 相手や目的に応じて「推敲」し、適切に自分の意図を表現させる指導の充実

題材をもとに自分なりに書くことはできているが、「推敲」する点に課題が見られる。

相手や目的に応じて、自分の書いた文章を分かりやすくさせる指導が必要である。その際、主述の対応や文章の展開、辞書を活用した語彙指導などの言語事項の指導と関連を図ることも重要である。さらに、書いた文章を互いに読み合う「評価・批評」の指導も効果的である。

(3) 文章の構成や展開に即して、内容を要約して理解を深めさせる指導の充実

文章を読んで段落の要点をとらえることはできているが、文章の構成や展開に即して筆者の考えを理解し、精査したり分析したりして要約する点に課題が見られる。

文章全体を大きくとらえてから細部を詳しく読ませたり、全体の論理の展開とのかかわりの中で細部を詳しく読ませたりするなど、指導法を工夫することが重要である。その際、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」との関連を図り、相手意識・目的意識をもたせながら要約させる指導が効果的である。

(4) 話し手の意図や表現上の工夫に注意して聞かせる指導の充実

話の内容を聞き取ることはできているが、適切な語句の選択や文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して聞く点に課題が見られる。

話の内容を的確に聞き取ることに加えて、話の内容や意図に応じて、分かりやすい語句が用いられているかどうか、文末の表現が工夫されているかどうかなど、話し手の表現の工夫に気付かせる指導が必要である。その際、話し手の工夫の良さを出し合い、気付いたことを自らの話に役立てて話させるなどの指導が効果的である。

(5) 漢字や語彙を豊かにし、言葉についての意識を高める指導の充実

漢字、語彙、慣用句等については、中学生の日常の言語生活で使用頻度が低いと思われるものが習得できていない点に課題が見られる。

漢字や語句を取り出して指導したり、幅広い読書活動をさせたりして、より多くの漢字や語句に触れさせる必要がある。その際、語彙を広げようとする意識を高めるような指導を工夫することが効果的である。

(6) 学校図書館等を有効に活用し、読書に対する興味・関心を高める指導の充実

読書についての意識は教師・生徒ともに高まってきているが、学校図書館の活用などが十分に行われていない点に課題が見られる。

学校図書館の活用を一層推進し、生徒が読書に対して興味・関心を高めるように指導することが必要である。その際、他教科や総合的な学習の時間等との関連、地域や保護者との連携によって、日常的に幅広く読書に親しめるようにすることが重要である。